

ひとよし農業・最適化推進運動

農委会名：人吉市農業委員会

1 地域の概要

人吉市は、熊本県の南部、人吉盆地の最南端に位置し、東西21.6km、南北22.1km、総面積210.48km²で、日本三急流のひとつ「球磨川」が東から西へ本市の中央部を貫流し、渓谷を蛇行しながら、延長100kmの流域を経て八代湾に注いでいる。

北緯32度12分36秒、東経130度45分45秒の位置にあり、熊本市・鹿児島市及び宮崎市へいずれも約70kmの等距離の内陸部に位置している。

中心部の標高は海拔105.7m、耕地は標高100～160mの地帯と標高600～700mの高地にまで散在しており、水田地帯は沖積土、畑は洪積土である。

気候は、比較的恵まれた気象条件だが、盆地のため多霧多霜で著しい気温の差がある。

農業では、水稻・葉タバコ・桃・栗をはじめ、地域の特性を活かした畜産・野菜・果樹など多様な農業経営が展開されている。



2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 10人（うち認定1人、女性0人）
- (2) 推進委員数 15人（うち認定1人、女性2人）
- (3) 事務局体制 5人（うち兼任1人・専任4人（再任用1人、会計年度任用1人））

3 掲げた目標

- (1) 担い手への農地の集積・集約化（新規） 9.8ha
- (2) 遊休農地の解消面積 17.0ha

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

(1) 担い手への農地の集積・集約化

市の農業振興課の水田台帳と農地台帳を照合して口頭契約を抽出し、戸別訪問にて利用権設定のお願いをした。

(2) 遊休農地の解消

遊休農地について、農地の管理、担い手以外との利用権設定などのお願いを戸別訪問により行った。

また、農業委員会内に組織した農業振興部会が主になり、市内の耕作放棄地を再生し、地元の小学生を対象とした農業体験及び食育活動を展開しながら農地の借り手を探した。

5 取り組みの成果

(1) 担い手への農地の集積・集約化

水田台帳との照合から抽出した口頭契約者や農地の利用意向調査のために行った戸別訪問により口頭契約の解消を進め担い手への新規集積ができた。

(2) 遊休農地の解消

耕作放棄地の解消においては、少しずつだが戸別訪問等で口頭契約が解消されてきている。また、A判定の遊休農地が耕作者の掘り起こし活動を通して約2.6 haの耕作の再開につながった。

本年も、ひとよし「食と農の絆づくり」プロジェクト会議が主となり実施している耕作放棄地を再生活用した農業体験活動は、小学校（2校）の児童約550人で、学年ごとにさつまいもや大根など、播種から管理、収穫までを行った。



6 課題と今後の方針等

今年度は、地域での話し合いにより地域農業の将来の在り方と地域計画を実現するためには誰がどの農地を利用するかを一筆ごとに定めた「目標地図」を策定した。

今後は農地の集積・集約化及び耕作放棄地の解消に向けて、市、農業公社、JA等の関係機関と連携し話し合いを進めていく。

